

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 30 年 6 月 25 日現在

機関番号：32643

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2015～2017

課題番号：15K02317

研究課題名(和文)近代日英図像に見るanthropomorphic表象の変遷とエコクリティシズム

研究課題名(英文)An Eco-Critical Interpretation of Transformational Anthropomorphic Images in Children's Literature 1850-1940

研究代表者

千森 幹子(Chimori, Mikiko)

帝京大学・外国語学部・教授

研究者番号：20236821

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,400,000円

研究成果の概要(和文)：本研究は、エコクリティシズムから、1850～1930年代に至る日英文学図像における anthropomorphic 表象、特に植物や物など人間以外の存在である自然に、人間的な感覚や感情・意味を読み取り、擬人化あるいは生命を付与する表象、を文学・美術・社会・子ども観等から考察する学際研究であり、カルチュラルスタディーズである。本研究では、植物や物が、日英の子どもの挿絵と邦訳で、どのように擬人化され、変遷したのか、そこに埋め込まれたエコロジーに対する文化的意味を、創作の過程、日英の擬人化の歴史、技法から探り、西洋的価値体系における自然観と日本の自然観の位相、人間と自然の対立融合共生の位相を、検証した。

研究成果の概要(英文)：This intercultural project deals with anthropomorphic iconography in British and Japanese illustrated books from the 1850s to the 1930s. Employing an eco-critical matrix of interpretation, it explores - from social, cultural, aesthetic and children's perspectives - anthropomorphic images relating to the natural world, and in particular flowers and plants. Special attention is paid to the procedures whereby personified images are constructed and transformed in both British and Japanese texts and illustrations. The cultural meanings concealed in personified images, as they relate to ecological questions, are investigated principally from three points of view: the history of the techniques of personification; the processes of confrontation, fusion and symbiosis in the co-habitation of the human and the natural; and the differences in attitudes to nature more generally, to be found in Britain and Japan.

研究分野：人文学

キーワード：表象文化 比較研究 エコクリティシズム 図像 擬人化 エコロジー カルチュラルスタディーズ

1. 研究開始当初の背景

国内外の関連する研究の中での当該研究の位置づけを、次のように判断し、当該研究の学術的な特徴・独創性を確認し、研究申請と研究を行った。

文学作品とその図像研究は、近年、注目されはじめています。しかし、当該研究に見るような、エコクリティシズムに立脚した、anthropomorphism に関わる、1850~1930年代英版子どもの挿絵研究、日英図像に関する比較研究は、申請者の知る限り、皆無である。

(1) エコクリティシズム的観点からの文学作品と図像に関わる研究：

エコクリティシズム観点に立脚した英版文学作品の挿絵研究は、極めて少ない。

先行研究としては、環境批評に立脚したアメリカ版挿絵研究として、Megan Matsuda・Michelle Christodoulou の“Clara Judson’s Flower Fairies: An Eco-Critical Analysis”(Web論文)があげられる。この論文は1915年出版のJudsonの挿絵本における、花の妖精と、20世紀初期の米国のエコクリティシズムの関連を問う論考として評価できるが、米国のJudsonのイラストを中心に論じている。

一方、本研究は、時代を1860~1920年代に、研究領域を、英(米)版文学作品図像へと、広げるものである。さらに、イソップからマザーグースさらに『アンデルセン童話集』にいたる、英版児童挿絵本の擬人化表象を俯瞰しつつ、19世紀半ばから20世紀初めの特性を解明し、さらに、日本の翻訳・挿絵本における、テキストと挿絵表象を、エコクリティシズム・日英比較から論じる点、他に例を見ない。

(2) 英欧図像における anthropomorphic 表象(動物表象は除外)：先行研究としては上記の“Clara Judson’s Flower Fairies: An Eco-Critical Analysis”があるが、同論文は擬人化表象のうち花の擬人化のみを対象にしている。

(3) エコクリティシズムからの映像・絵本研究：

先行研究としては、Geraldine Massy と Clare Bradford の論文 “Children as Ecocitizens” (*Contemporary Children’s Literature and Film* 2011) があるが、扱う領域は「もののけ姫」などの、現在の映像絵本作品に限定されている。

(4) 環境批評から英国児童文学作品を論じる研究：

Suzan Rowland の *The Ecocritical Psyche*(2012) や、Anthony Pavlik の論文 “Children’s Literature and the Ecocriticism”(2011) などがあるが、挿絵本を

論じる研究はない。

(5) 日英子ども本の図像における擬人化表象研究：

1850~1930年代出版の子どもの挿絵における植物やモノの擬人化にかかわる日英比較研究は、皆無である。

以上、本研究は、英国を中心とした西欧の anthropomorphic 表象(動物表象は除外)を、時代を1850~1930年代に、研究領域を、人間と非人間の区別が未分化である子どものための挿絵本、特に、日英(仏米)版文学作品挿絵へと広げ、エコクリティシズムに立脚し、社会・文化・美術技法・子ども観や自然観などの文脈から読み解く学際的比較研究であり、日英比較研究である。

(6) 国内・国際的な評価：

本研究が研究手法を継承発展した研究代表者による先行研究：

・単著 “Sense in Nonsense: The *Alice* Books and Their Japanese Translators and Illustrators” (イースト・アングリア大学、博士論文、2003)

・科学研究費補助金(基盤研究C)の交付を受けた以下の三つの研究における文学作品と図像・時代思潮と図像に関わる比較研究手法の継承発展：

A. 「ポストコロニアル的観点から考察した日英『ガリヴァー旅行記』図像にみる少年性」(2005-8年度)

B. 「ポストコロニアル的観点から考察した日英文学図像にみるオリент表象の分化と変容」(2009-11)

C. 「19-20世紀英版文学図像のオリент表象にみる東西交差の系譜とポスト植民地主義」(2012-4)

・‘Alice in Japan’ *Illustrating Alice: An International Selection of Illustrated Editions of Lewis Carroll’s Alice’s Adventures in Wonderland and Through the Looking Glass* (2013, Artists’ Choice Editions) 60-67.

・国際学会での発表：

‘Gulliver in the Orient,’ Clare Hall Colloquium, 24 March 2015, Clare Hall, University of Cambridge (Cambridge, UK)

ケンブリッジ大学の Gillian Beer 教授と John Harvey 博士、イースト・アングリア大学の元指導教授 Clive Scott 教授に、研究の独創性を評価され、Harvey 博士と Scott 教授の二人から、今回の共同研究の内諾をえる。

2. 研究の目的

本研究は、エコクリティシズムから、1850~1930年代に至る日英文学図像における anthropomorphic 表象、特に、植物や物など人間以外の存在である自然に、人間的な

感覚や感情・意味を読み取り、擬人化あるいは生命を付与する表象を、文学・美術・社会・子ども観等から考察する学際研究であり、カルチュラルスタディーズである。本研究では、植物(花や木々)や物(人形や日用品等)が、日英の子どもの挿絵と邦訳で、どのように擬人化され、この時期、変遷したのか、そこに埋め込まれたエコロジーに対する文化的意味を、創作の過程(テキストと挿絵)、日英の擬人化の歴史、技法(描写、構図、空間処理等)から探り、西洋的価値体系における自然観と日本の自然観の位相、人間と自然の対立融合共生の位相を、検証解明することを、目的とする。

具体的な目的は、次の5点である。

(1) 1850-1930年代の英仏米欧版挿絵本における、anthropomorphic 表象(擬人化・生命化表象)に関わる、図像資料調査、収集複写とそのデジタル資料作成

(2) 同年代の邦訳と日本作品の anthropomorphic 表象に関わる、図像資料調査と資料収集複写とデジタル資料作成

(3) 英仏米欧日版挿絵における植物や物に関わる anthropomorphic 表象を、文学、アニメズム、民俗学、美術様式等から分析し、その特性を解明

(4) 海外研究者との共同研究

● John Harvey 博士(ケンブリッジ大学) 英文学と視覚表象の分析

● Clive Scott 教授(イースト・アングリア大学) 英米欧文学と視覚芸術の分析と比較研究

(5) 成果発表

3. 研究の方法

(1) 先ず、研究の第一歩である、英米欧文学挿絵に関わる資料研究・調査・収集、文字および画像テキスト複写とデジタル化、インデックス化

収集方法:

● 購入: 図像資料は、色調手触り等を検証するためできる限り購入。

● 資料所蔵図書館での調査/複写

英国: British Library (London) Cambridge University Library (Cambridge) など

米国: Princeton University Library (Princeton)

北欧諸国: ストックホルム王立図書館・アテネウム美術館・ヘルシンキ大学図書館など

(2) 海外共同研究者との共同研究:

調査収集したデータをもとに、共同研究者との共同研究により、本研究に広範囲重層的な視点を提供する。

● ケンブリッジ大学 John Harvey 教授(19~20世紀英文学と図像研究の第一人者) 同博士の英文学と挿絵全般に関する学際的見識は、19・20世紀英版文学とその図像を、多領域から扱う本研究

に、新たな視点を提供

- イースト・アングリア大学 Scott 教授(映像研究、ヨーロッパ文学、比較文学) 英国版文学図像に、英国にとどまらぬヨーロッパ的広義な視点を提供するとともに、挿絵に映像芸術という重層的な視点を提供

(3) 研究資料の整理分析:

収集した画像・文字資料の整理分析

欧米版画像・文字資料:

● フランス版:

ヴァラン、グランヴィルなど擬人化表象と関連する画家による挿絵本

● 英国版:

ウォルター・クレイン、ウォーイック・ゴープル、カイ・ニールセン、チャールズ・ロビンソン、アーサー・ラッカム、エドモンド・デュラックなど擬人化表象と関連する画家による挿絵本

● アメリカ版:

M.W.エンライトなど擬人化表象と関連する画家による挿絵本

● 北欧版:

エルサ・ベスコフなど擬人化表象と関連する画家による挿絵本

日本版画像・文字資料:

『おとぎの世界』『金の星・金の船』『ドモノクニ』など

4. 研究成果

(1) 資料収集・整理・デジタル化

フランス版関連画像の収集・整理(1829~1890年):

ヴァラン(4種類)、グランヴィル(5種類)、モンペール(5種類)合計14種。(デジタル資料化)

英国版関連画像の収集・整理

(1860年代~1939年挿絵本):

ウォルター・クレイン(36種類)、ウォーイック・ゴープル(2種類)、カイ・ニールセン(5種類)、チャールズ・ロビンソン(44種類)、アーサー・ラッカム(84種類)、エドモンド・デュラック(14種類)

合計185種。(複写・接写した資料のうち、ほとんどをデジタル資料に変換)

アメリカ版関連画像の収集・整理(1906~1920年):

M.W.エンライト(9種類)

北欧版関連画像の収集・整理(1897

年～1919年挿絵本):
エルサ・ベスコフ(20種類)他。(ほとんどをデジタル資料に変換)

*なお、上記資料のインデックス化は今後の課題

日本版関連画像の収集・整理・デジタル化

- 『おとぎの世界』全巻における花の擬人化表象資料収集。デジタル化は50パーセント程度。
- 『金の船・金の星』全巻における花の擬人化表象資料収集。
- 『コードモノクニ』(97冊)大阪中央図書館国際児童文学館、国会図書館、日本近代文学館での調査。植物・モノの擬人化表象関連の画像の複写および接写。デジタル化は50パーセント程度。

*なお、整理・分類・デジタル化・インデックス化は今後の課題。

(2) 仏英欧版関連画像の調査収集整理した228種の挿絵本(1829～1890年)における擬人化表象(動物・植物・モノ)のデータ収集解析。

具体的には、出版地域 調査した画家と擬人化挿絵本数の特定。

なお、擬人化表象の対象や、その特徴については、分類・解析途上である。

出版地域：総計 228 種類
フランス：14 種類
イギリス：185 種類
アメリカ：9 種類
北欧：20 種類

画家名と擬人化の種類数 / 調査挿絵本
(調査総計: 擬人化表象 116 種類 / 228 種類中)

フランス (総数: 10 種類 / 14 種類中)

ヴァラン: 4 種類 / 4 種類中
グランヴィル: 5 種類 / 5 種類中
モンペール: 1 種類 / 5 種類中

英国 (総数: 90 / 185 種類中)

クレイン: 17 / 36 種類
ゴープル: 1 / 2 種類中
ニールセン: 3 / 5 種類
ロビンソン: 32 / 44 種類中
ラッカム: 31 / 84 種類
デュラック: 6 / 14 種類

アメリカ (総数: 4 種類 / 9 種類)

エンライト: 4 種類 / 9 種類中

北欧 (総数: 12 / 20 種類)

ベスコフ: 12 / 20 種類中

(3) 日本版関連画像の調査収集整理した児

童雑誌における擬人化表象(動物・植物・モノ)のデータ収集と調査。

なお、画家名、時代、その擬人化の対象や特徴に関しては、整理途中である。

『おとぎの世界』8種類:(花の擬人化表象のみ)

『金の船・金の星』8種類:(花の擬人化表象のみ)

『コードモノクニ』77冊 / 97冊中

以上、上記の研究成果は、まだ調査集約途中であり、未発表の段階であるので、欧米版の擬人化表象および日本版擬人化表象の対象や特性等とその日英比較研究的考察は、後日、拙著などで随時発表する予定である。

なお、その成果の一部は、2018年出版の拙著『ガリヴァーとオリエント 日英画像と作品にみる東方幻想』(法政大学出版局)で、詳細に発表しているの、参照。さらに、今後、これらの挿絵本全般にわたる擬人化表象の研究成果を、一括して著書としてまとめる予定。

(4) 本研究の海外発信

Mikiko Chimori, 'Gulliver in the Orient,' Clare Hall Colloquium, 2015年3月24日 Clare Hall, University of Cambridge (Cambridge UK)

本発表は、研究代表者が、2005年から2014年度までに、科学研究費補助金を受けた三つの研究「ポストコロナル的観点から考察した日英『ガリヴァー旅行記』画像にみる少年性」(2005-2008年度 課題番号:17520215)、「ポストコロナル的観点から考察した日英文学画像にみるオリエント表象の分化と変容」(2009-2011年度 課題番号:21520270)、「19-20世紀英版文学画像のオリエント表象にみる東西交差の系譜とポスト植民地主義」(2012-2014年度 課題番号:21520270) - と今回の成果の一部を国際的に発信した研究成果である。

本発表は、発表時のパワーポイントと録音音声、Clare Hall Colloquiumとして、インターネット発信されている。
(https://upload.sms.cam.ac.uk/media/1944003?format=mpeg4&quality=high&fetch_type=dl)

(5) 英版文学作品画像における表象研究

現在、上記で収集調査分類した英版文学作品画像における表象を調査し、いくつかの作品や画家に的を絞り、収集調査研究中である。

さらに、その研究は、研究代表者が、科学研究費補助金(2018～2021年、基盤研究C)を受けた次の研究、「エコクリティシズムの観点から見た日英近代画像における擬人化表象の諸相と東西交流近」課題番号:18K00433)に、継続発展される予定である。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文](計 1 件)

千森幹子、'日欧図像に見る花の擬人化表象 1847-1934,' 『東京女子大学比較文化研究所紀要』第77巻 79-101. 2016年 査読有

[学会発表](計 2 件)

千森幹子、'『ガリヴァー旅行記』の視覚性 シンポジウム『ガリヴァー旅行記』の読みの可能性、日本ジョンソン協会第48回大会、2015年7月4日、同志社大学(京都府、京都市)

Mikiko Chimori, 'Gulliver in the Orient,' Clare Hall Colloquium, 2015年3月24日 Clare Hall, University of Cambridge (Cambridge UK)

[図書](計 3 件)

千森幹子、『ガリヴァーとオリエント 日英図像と作品にみる東方幻想』法政大学出版社、1-424. 2018年

千森幹子、『表象のアリス テキストと図像に見る日本とイギリス』法政大学出版社、1-438. 2015年

千森幹子、『19 - 20世紀英版文学図像のオリエント表象にみる東西交差の系譜とポスト植民地主義』(平成24~26年度文部科学省科学研究費補助金基盤研究(C)成果報告書 課題番号:24520300 1 - 6. 2015年

[その他]

ホームページ等

- http://jglobal.jst.go.jp/detail.php?JGLOBAL_ID=200901065374195240&q=%E5%8D%83%E6%A3%AE%E5%B9%B9%E5%AD%90&t=0
- https://upload.sms.cam.ac.uk/media/1944003?format=mpeg4&quality=high&etch_type=dl

6. 研究組織

(1)研究代表者

千森 幹子 (CHIMORI MIKIKO)

帝京大学・外国語学部・教授

研究者番号: 20236821

(2) 研究協力者

Clive Scott

Professor, School of English and American Studies, University of East Anglia

John Harvey

Emeritus Lecturer, Faculty of English,